

## UCLA 出張報告書

生命医科学専攻修士 2 年

山口 拓馬

学生を含め 15 人程度の規模の交流会、早稲田と UCLA の人数比は、ほぼ半分ほどであった。各研究員・学生が自分の研究を紹介し、質問をしていくという形式の交流会であった。中でも最も興味を引かれたのは、Silva 先生の研究であった。Silva 先生は「memory allocation」というテーマを掲げており、今回話していただいた内容は、主に、光遺伝学を用いた行動実験による、マウスの関連記憶についての報告であった。

私は、普段の研究では、神経細胞の機能を分子レベルで理解するための基礎研究を行っており、Silva さんのような脳機能そのものを理解するための研究とは、観察レベルが異なっている。当然、得られる結果についても全く異なる。その点で、脳研究が多角的に行われていることの重要性を再認識し、様々な可能性を考慮に入れながら、普段の研究生活に励むことができたらと思った。